

県内(地域・業種別)の経営環境と業況感(2010年7~9月期見通し)

～第40回おきぎん企業動向調査(2010年4~6月期)調査結果より～

I. はじめに

1. 調査の結果

業況DIの推移

期間・結果 項目	2009年						2010年					
	4-6月期		7-9月期		10-12月期		1-3月期		4-6月期		7-9月期(見通し)	
	DI	前期比	DI	前期比	DI	前期比	DI	前期比	DI	前期比	DI	前期比
全業種計	△ 14.6	+	△ 4.7	+	△ 5.6	-	0.2	+	△ 3.2	-	18.1	+
製造業	△ 10.9	+	8.5	+	△ 5.1	-	△ 7.7	-	△ 23.0	-	14.8	+
土木業	△ 7.9	+	0.0	+	22.5	+	9.5	-	△ 12.8	-	7.7	+
建築業	△ 13.0	-	△ 1.5	+	0.0	+	5.0	+	△ 5.6	-	20.8	+
卸売業	△ 18.0	+	△ 17.0	+	△ 13.4	+	△ 5.6	+	△ 16.1	-	5.7	+
小売業	△ 15.0	+	△ 8.3	+	△ 5.5	+	0.0	+	6.9	+	18.1	+
情報通信サービス業	△ 25.0	-	0.0	+	△ 16.7	-	36.4	+	25.0	-	25.0	-
医療・福祉	42.1	+	43.8	+	38.9	-	28.6	-	30.6	+	33.3	+
その他サービス業(宿泊・飲食等)	△ 20.0	+	△ 10.0	+	△ 4.8	+	△ 13.2	-	6.3	+	37.5	+
その他(不動産、運輸等)	△ 24.7	-	△ 7.1	+	△ 21.3	-	△ 1.0	+	△ 3.2	-	17.2	+

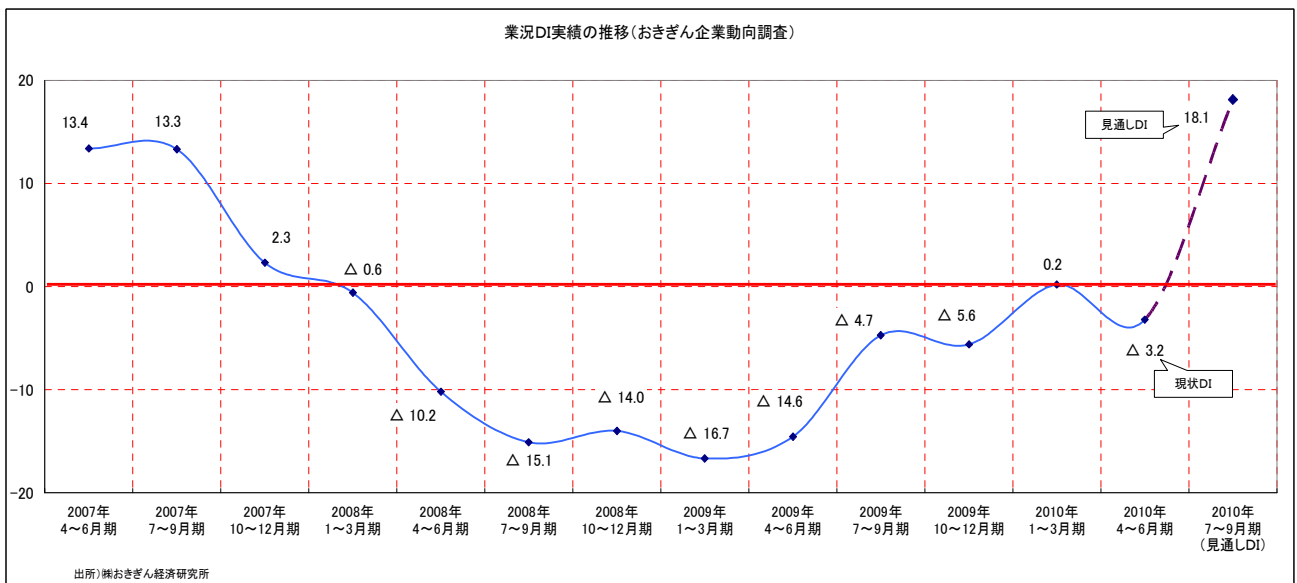
注)プラスマイナスの符号は、前期比で比較

※今回調査

2010年4~6月期調査の業況DIは△3.2となり、前期の0.2から悪化となりました。

業種別でみると、小売業、医療・福祉、その他サービス業、情報通信サービス業で業況改善の動きが見られます。一方で製造業、土木業、建築業、卸売業、その他において業況の弱さが見られます。

2010年7~9月期の業況見通しDIについては18.1となり、多くの業種において、業況の改善が見込まれています。



2. 調査の概要: 本調査は各企業の業況や売上高、売上・仕入単価、収益面等の経営状況項目について、主に経営者の判断(当期実績、次期見通し)をDI(景気動向指数)として取りまとめたものです。

- a. 調査時期: 2010年5月下旬～6月上旬
- b. 調査対象: 県内企業 524社
- c. 調査内容: ①業況 ②売上高 ③売上単価 ④仕入単価 ⑤採算 ⑥引き合い(受注)
⑦雇用 ⑧IT関連投資 ⑨その他の投資(IT以外への投資)

—おきぎんDIについて—

主に企業経営者の業況などに関する実績判断や見通しを「好転・上昇・増加」、「不変(変わらない)」、「悪化・低下・減少」のいずれかでお答えいただき、それらの割合を表したものです(本レポートでは方向性を示すため「悪化・低下・減少」はマイナス表示を用いています)。

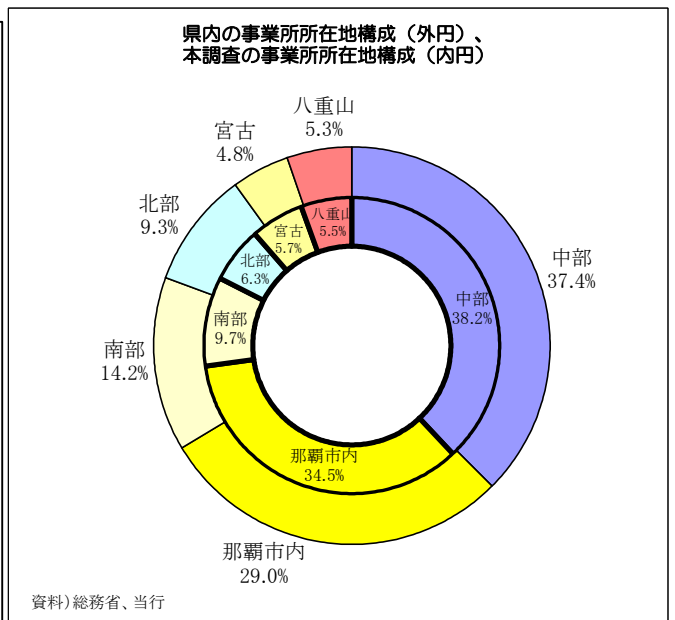
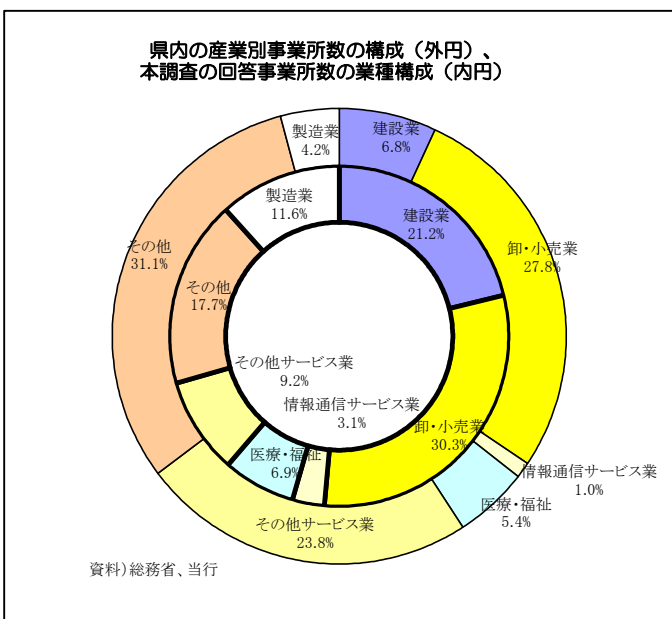
①「好転・上昇・増加」+「不変(変わらない)」+「悪化・低下・減少」=100%

②DI=「好転・上昇・増加」の割合(%)－「悪化・低下・減少」の割合(%)

上記①、②から、DIがプラスなら景気が良い(または上昇見込み)、マイナスなら悪い(または下降見込み)といった具合にご覧いただけます。

3. 調査対象企業の業種・所在地構成

県内の産業別事業所数および事業所所在地構成(2006年事業所・企業統計調査)と比較すると、本調査はその他サービス業(宿泊、飲食等)及びその他(不動産、運輸等)が少なく、製造業、建設業(本調査では土木業・建築業)、卸・小売業が多いサンプリングになっています。なお所在地は、中部、那覇市内で7割を超えるシェアとなっています。



※ 今回調査より業種項目について以下の通り変更を行い、既存値についても過去に遡って修正した。

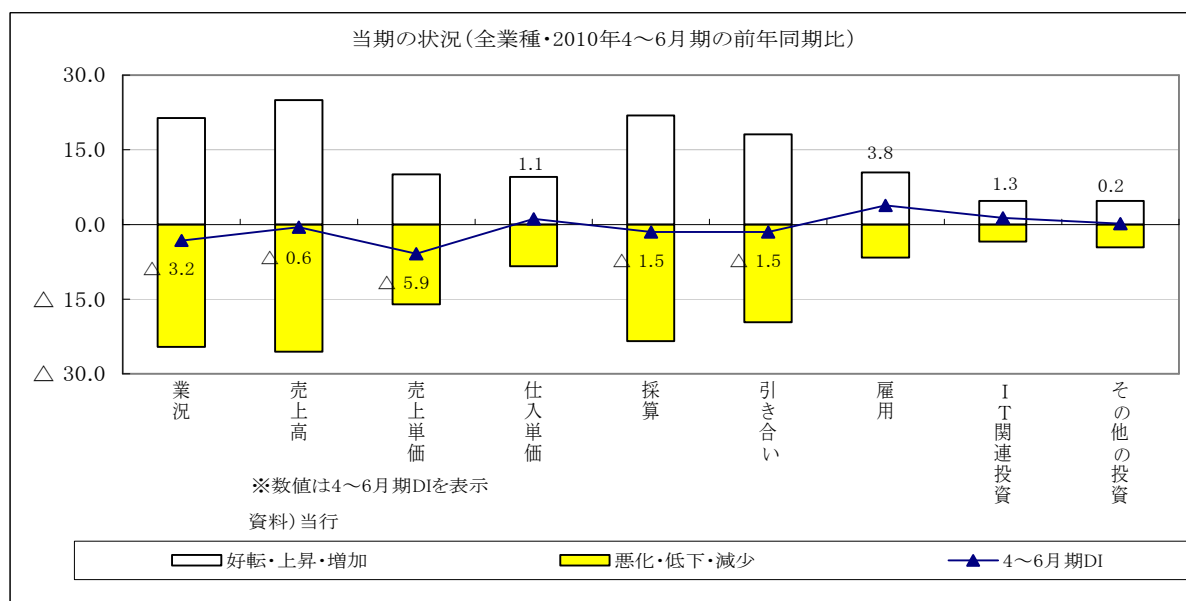
【従前】:その他サービス業 → 【変更後】:医療・福祉
→ :その他サービス業

II. 調査結果(1) ～おきぎん DI: 県内の経営環境と業況感について～

1. 全業種

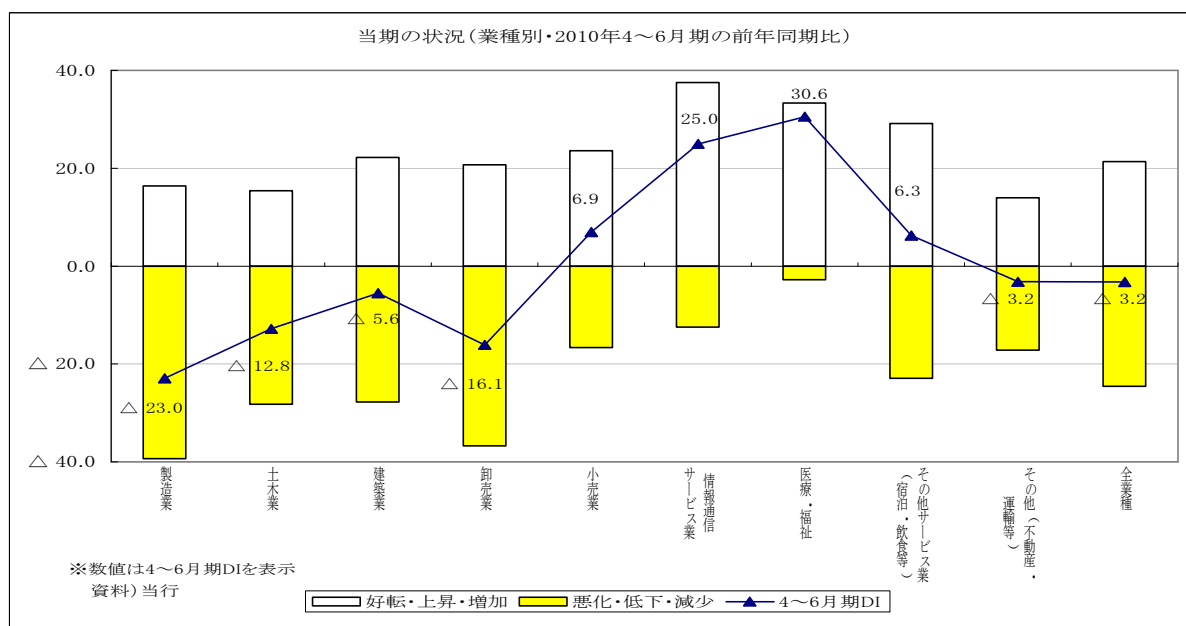
a. ①当期の状況(項目別・2010年4～6月期の前年同期比)

実線で示している当期のDIを見ると、個人消費の低迷や観光需要の伸び悩み、公共工事の減少などにより売上高(△0.6)、引き合い(△1.5)と需要は減少。競争激化による売上単価の悪化(△5.9)及び原油価格の高騰による仕入単価の上昇(1.1)から採算(△1.5)も悪化しています。業況DIは△3.2と、全体として**業況の弱さ**が見られます。



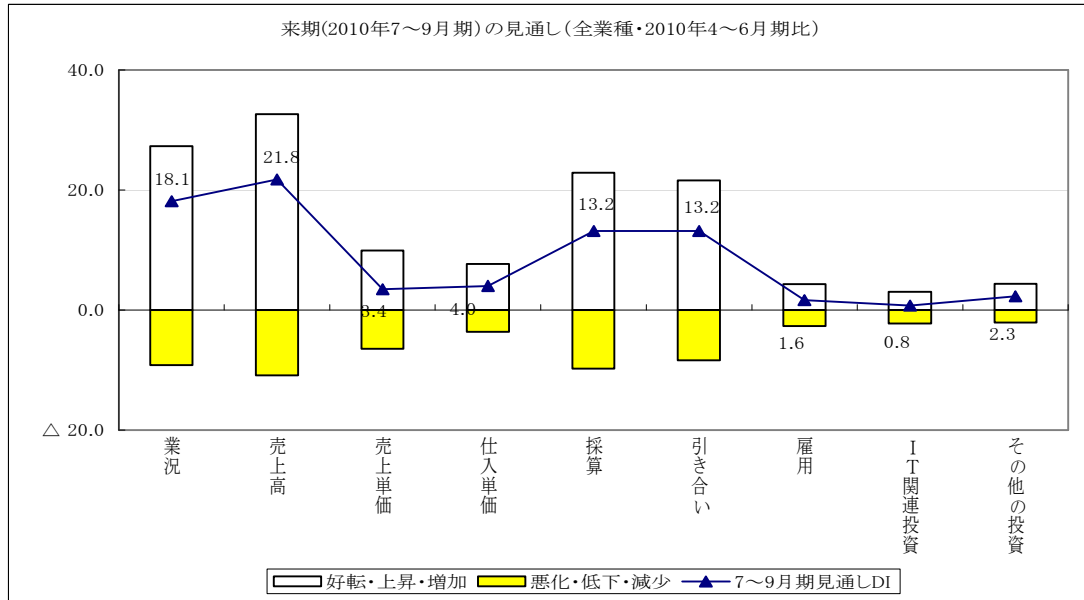
a. ②当期の状況(業種別・2010年4～6月期の前年同期比)

当期の状況を業種別に見た場合、公共工事の減少などから、建設関連(生コン製造、土木建築、資材販売等)で需要が減少し、製造業、土木・建築業、卸売業などで**業況の弱さ**が見られます。医療・福祉は好調を維持し、小売業やその他サービス業などでは新型インフルエンザの流行が発生した昨年の反動による観光客の増加などから、**業況改善の動き**が見られます。



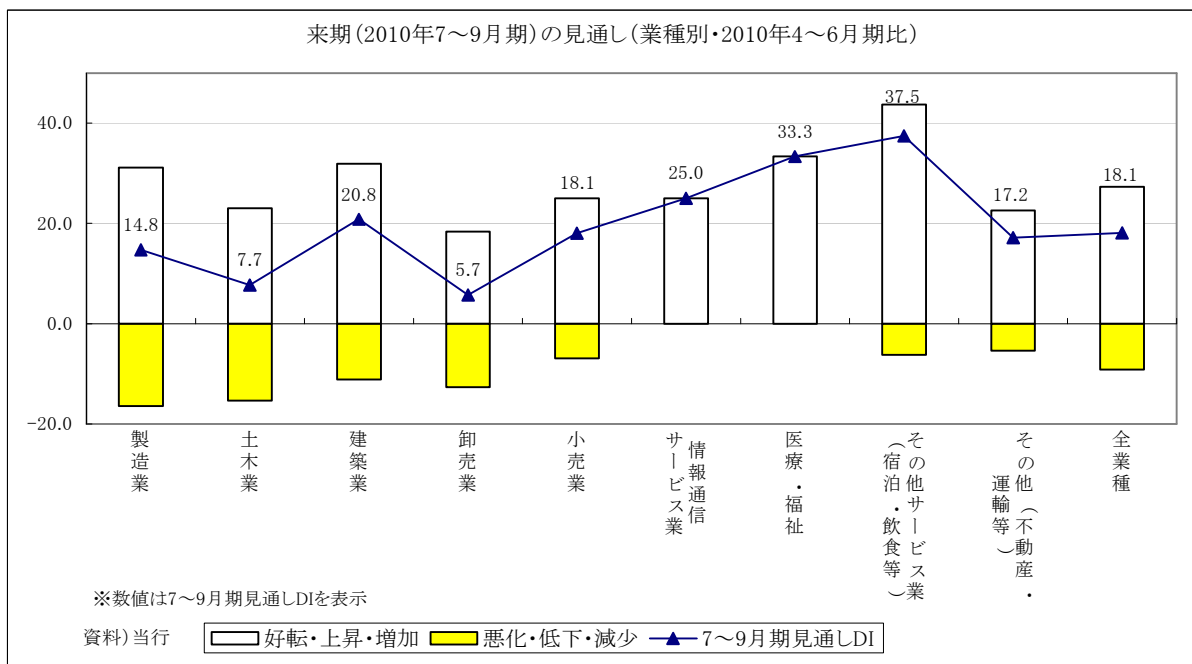
b.①来期の見通し(項目別・2010年7～9月期の2010年4～6月期比)

来期(2010年7～9月期)の見通しDIを見ると、高校総体の県内開催や夏場の観光シーズンの到来、旧盆や夏祭り等の県内イベント、土木・建築業の受注増加など全体的な需要の増加が見込まれます。原油や鉄などの原材料価格の高騰が懸念されるものの、売上高(21.8)、採算(13.2)、引き合い(13.2)と各項目とも好転が期待され、業況見通しDIは**業況改善の動き**となっています。



b.②来期の見通し(業種別・2010年7～9月期の2010年4～6月期比)

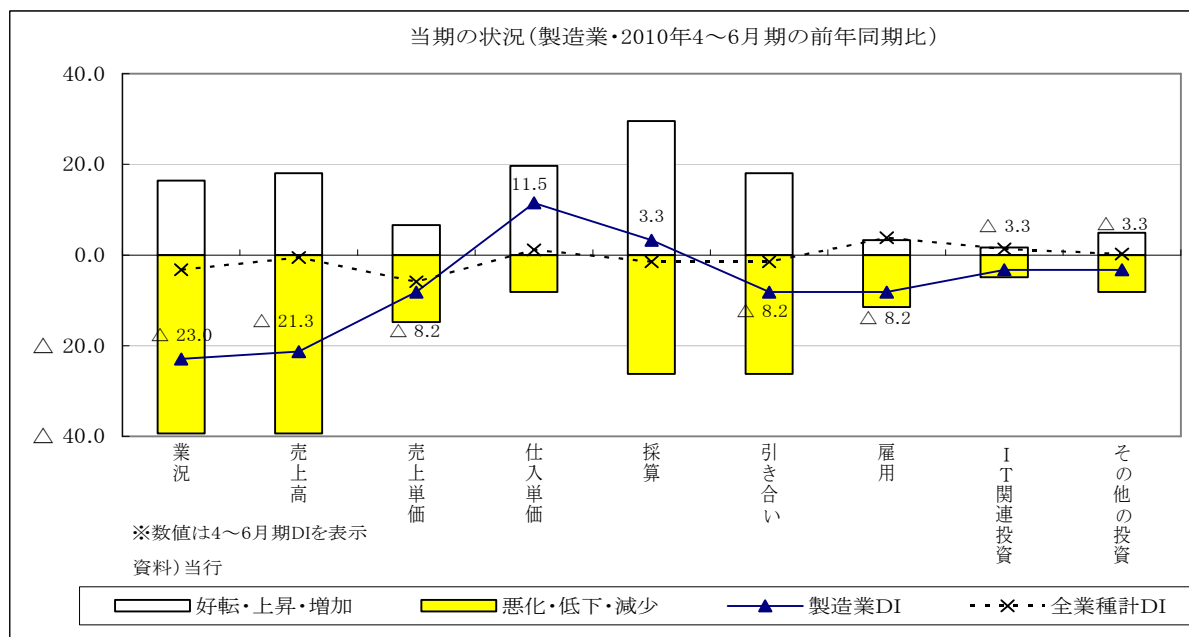
業種別に見ると、上記記載の通り、インターハイ特需や観光客数の増加見込から観光関連全般において大きな期待感が伺えます。土木建築関連においても好転が見込まれます。また、9月のエコカー補助金期限や10月のタバコ値上前の駆け込み需要などの特殊要因による売上増加も見込まれ、来期の見通しDIは18.1と好転が見込まれます。



2. 製造業

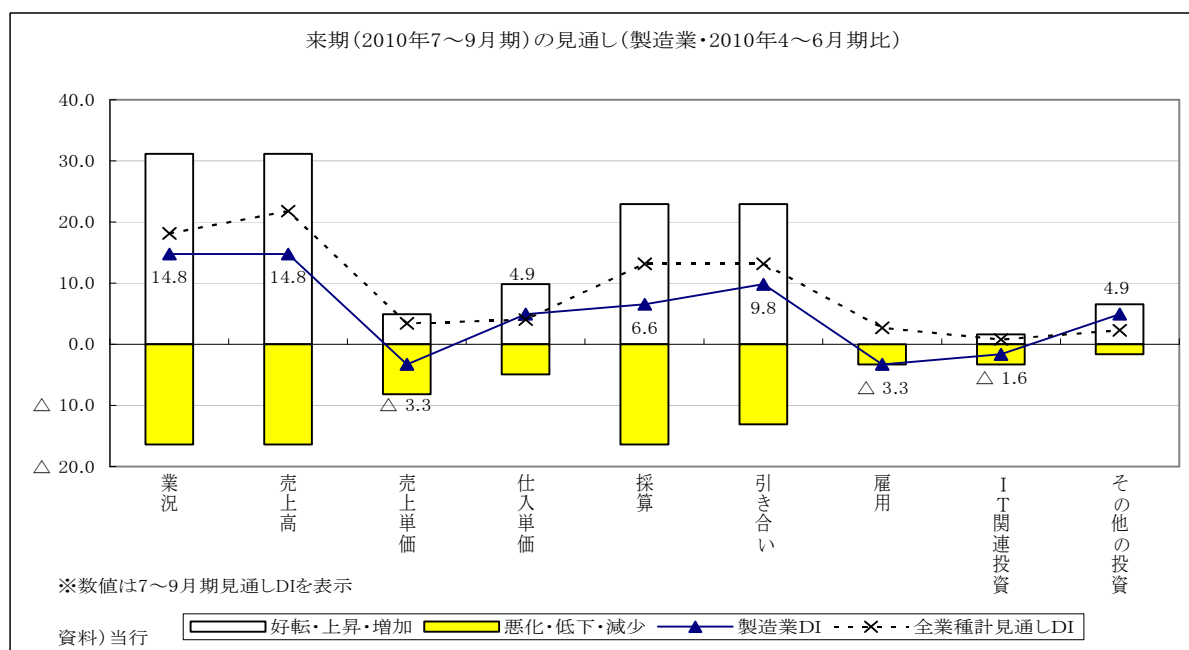
a. 当期の状況 (2010年4～6月期の前年同期比)

製造業DIを見ると、原油価格の高騰により仕入価格(11.5)は上昇していますが、これまでの経費削減等の経営努力により採算(3.3)は改善しています。しかし業況(△23.0)、売上高(△21.3)、引き合い(△8.2)については季節的に需要が低迷する建設関連や消費が伸び悩む食品・酒造関連において低下し、製造業全体として**業況の弱さ**が見られます。



b. 来期の見通し (2010年7～9月期の2010年4～6月期比)

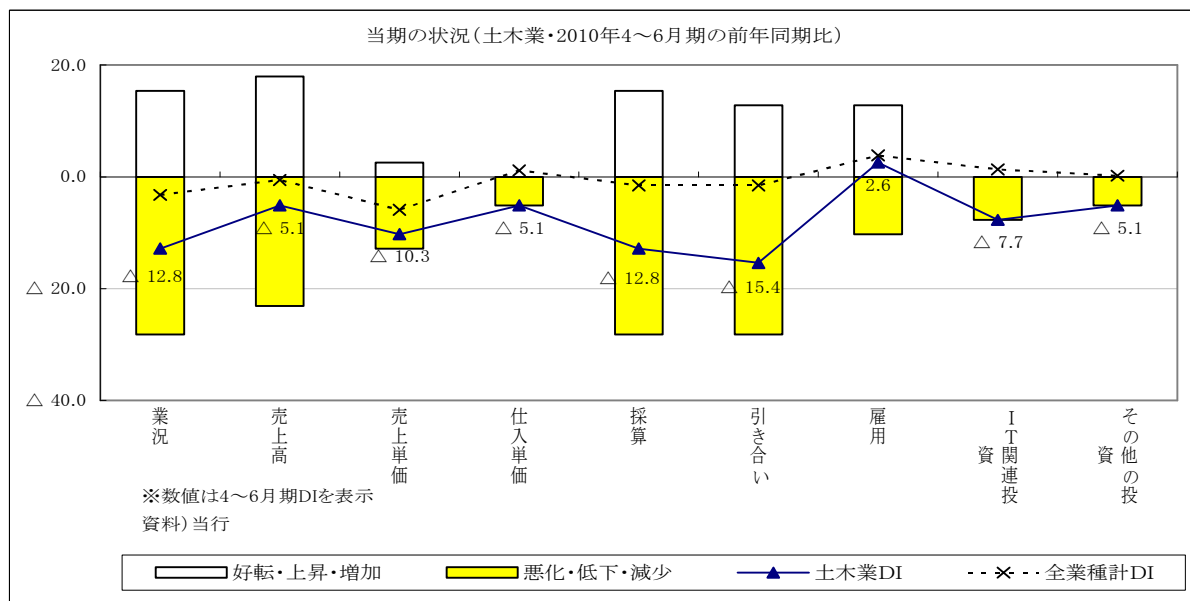
来期の見通しを見ると、競争環境は厳しく売上単価(△3.3)は低下が続く見込です。しかし、観光・中元シーズンの到来や公共工事の発注増加が見込まれるなど、多くの業種において、売上高(14.8)、引き合い(9.8)と全体的に需要が増加すると見込まれます。しかし、経費削減の動きは続き雇用は△3.3となります。製造業全体として**業況改善の動き**が見られます。



3. 土木業

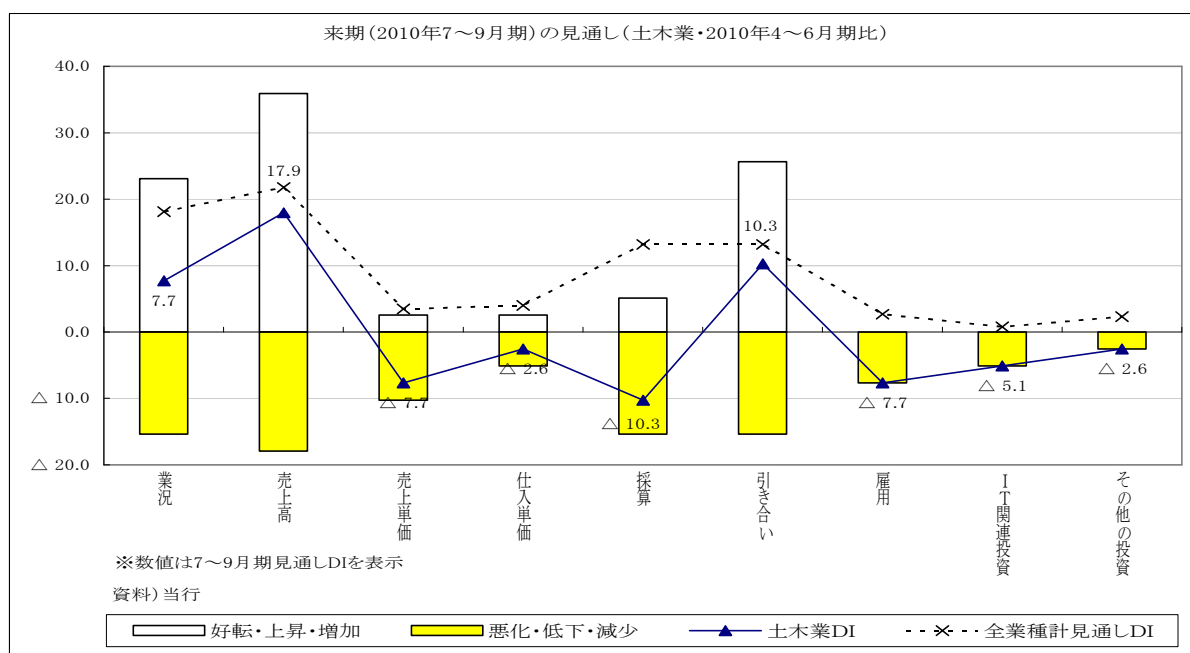
a. 当期の状況 (2010年4～6月期の前年同期比)

土木業DIを見ると、年々公共工事発注額が減少するなか、4～6月は公共工事がピークアウトする時期であり、売上高 $\Delta 5.1$ 、引き合い $\Delta 15.4$ と需要は減少しています。競合も厳しく売上単価($\Delta 10.3$)は低下し、採算($\Delta 12.8$)も悪化しています。一部において受注が堅調な企業により雇用(2.6)を増加させる動きが見られます。土木業全体として**業況の弱さ**が見られます。



b. 来期の見通し (2010年7～9月期の2010年4～6月期比)

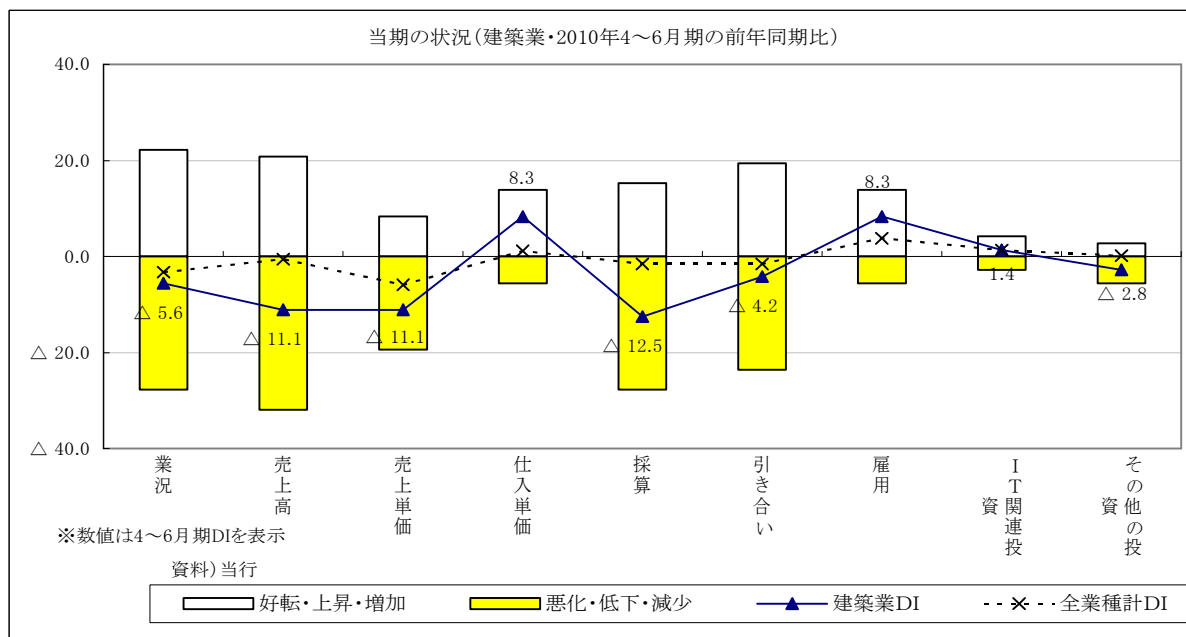
来期の見通し土木業DIを見ると、受注環境は厳しさを増し、売上単価($\Delta 7.7$)、採算($\Delta 10.3$)は低下を見込みます。しかし、夏場以降に公共工事の増加が予想され、業況(7.7)、売上高(17.9)、引き合い(10.3)と需要の増加が見込まれます。土木業全体として**業況改善の動き**が見られます。



4. 建築業

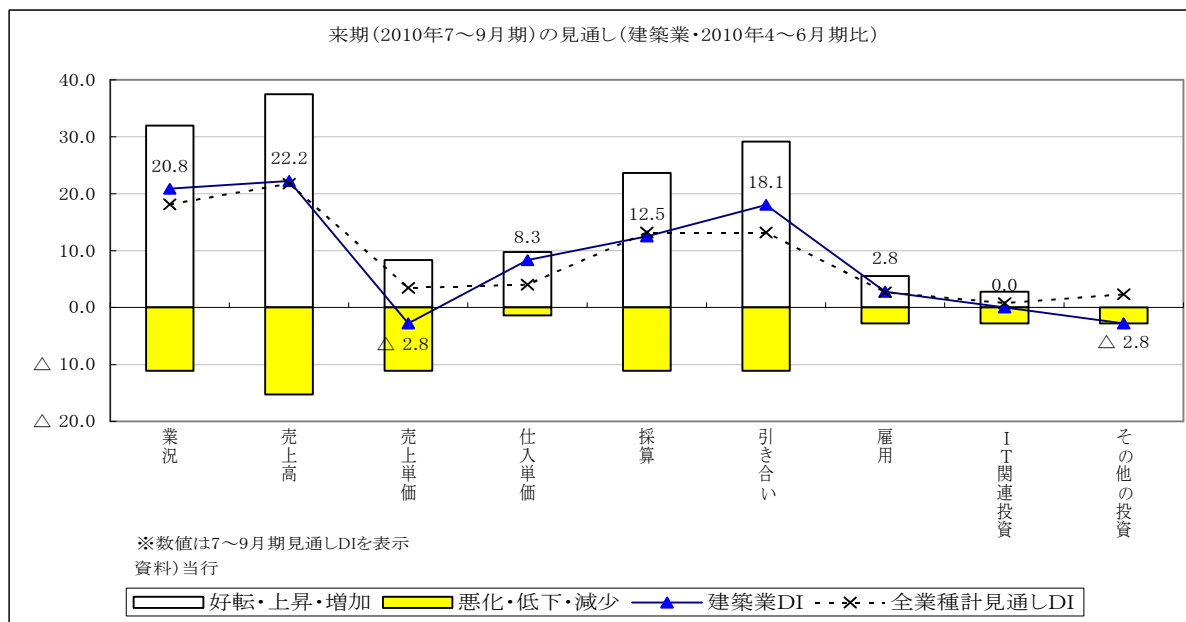
a. 当期の状況 (2010年4～6月期の前年同期比)

建築業DIを見ると、個人住宅やアパートなど民間需要が少しずつ上向き始めていますが、土木業同様、公共工事のピークアウト期であり業況(△5.6)、売上高(△11.1)、引き合い(△4.2)と需要は減少しています。また、原油高や鉄筋等資材価格の上昇により採算(△12.5)も悪化しています。建築業全体として**業況の弱さ**が見られます。



b. 来期の見通し (2010年7～9月期の2010年4～6月期比)

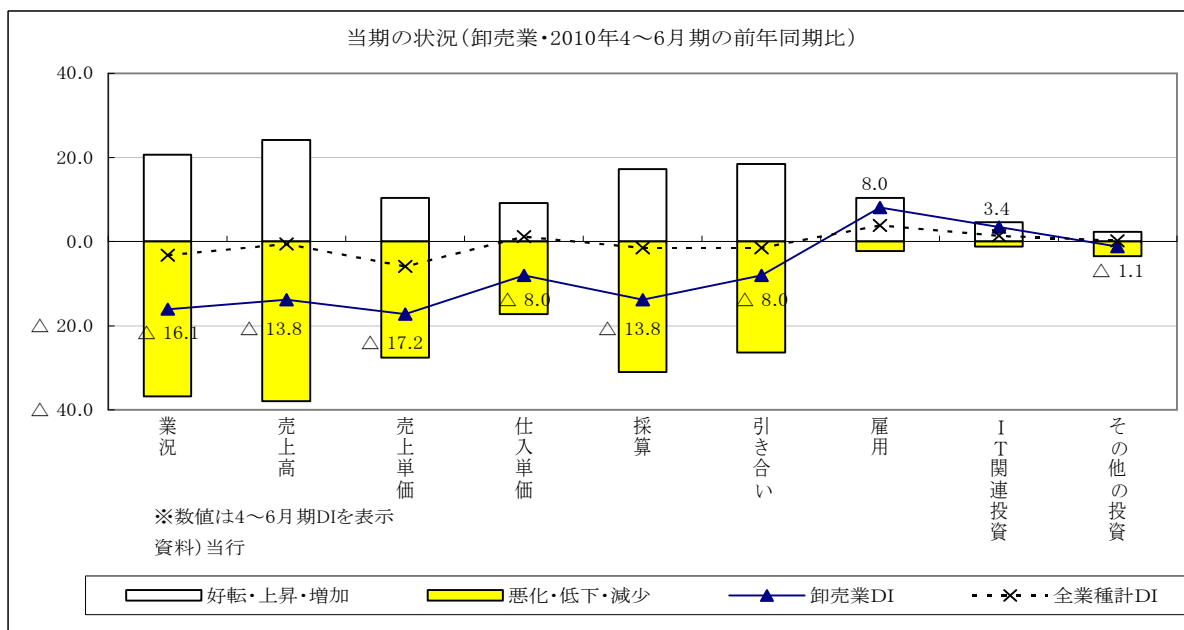
来期の見通し建築業DIを見ると、増え始めてきた民間需要に加え、公共工事が動き出す時期であり、4～6月期と比較すると業況(20.8)、売上高(22.2)、引き合い(18.1)と好転する見込です。また、引き続き受注競争の激化、仕入単価の上昇などの懸念はあるものの採算(12.5)も好転を見込みます。建築業全体として**業況改善の動き**が見られます。



5. 卸売業

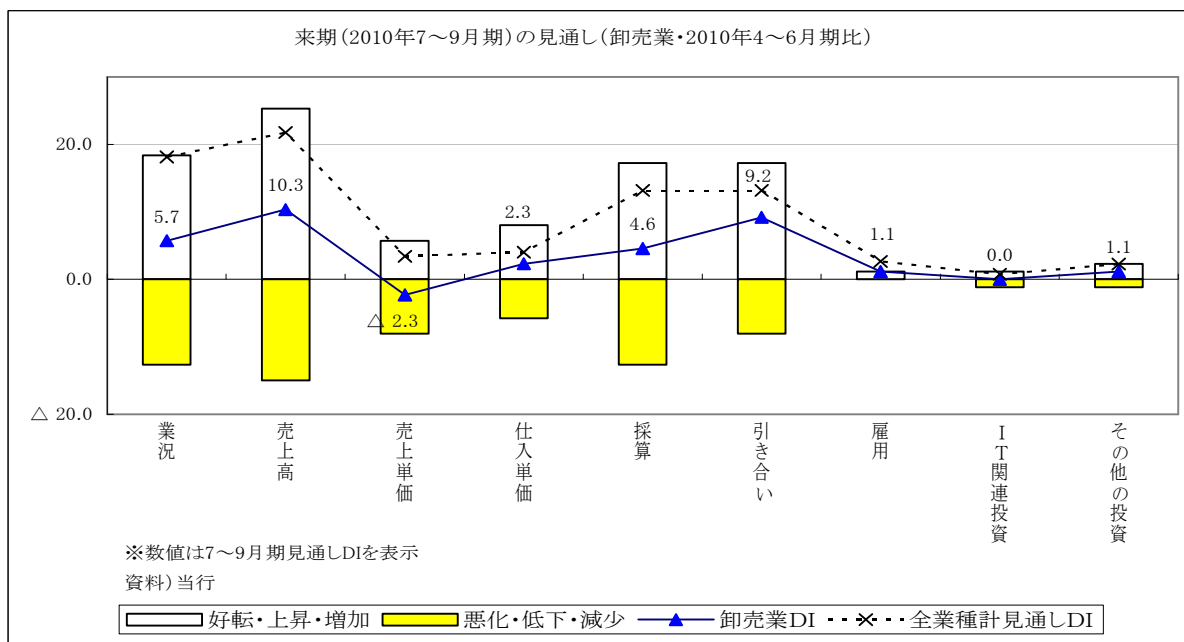
a. 当期の状況 (2010年4～6月期の前年同期比)

卸売業DIを見ると、建設需要や消費動向の鈍さなどから売上高(△13.8)引き合い(△8.0)など需要は減少しています。円高により仕入価格の低下が見られるものの、需要の低さから売上単価も低下し、採算も悪化しています。営業強化の為、県外マーケットへの営業強化や営業所新設など食品関連等、一部において雇用改善の動きが見られます。卸売業全体として**業況の弱さ**が見られます。



b. 来期の見通し (2010年7～9月期の2010年4～6月期比)

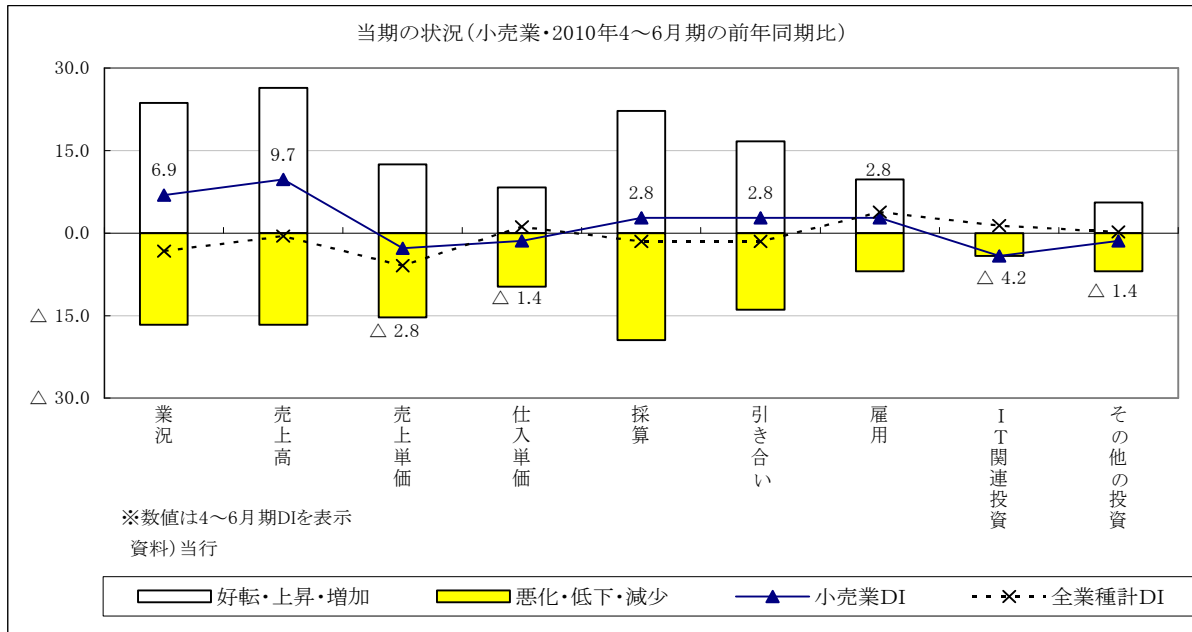
来期の見通しを見ると、旧盆、お中元、夏休みなど例年の季節的な需要増に加え、今年は高校総体の沖縄県開催により需要は大きく増加することが見込まれます。売上単価(△2.3)については厳しさが続くものの、大量仕入や在庫管理の徹底などにより採算確保を見込みます。建設資材等への需要増も見込まれることから、卸売業全体としては**業況改善の動き**が見られます。



6. 小売業

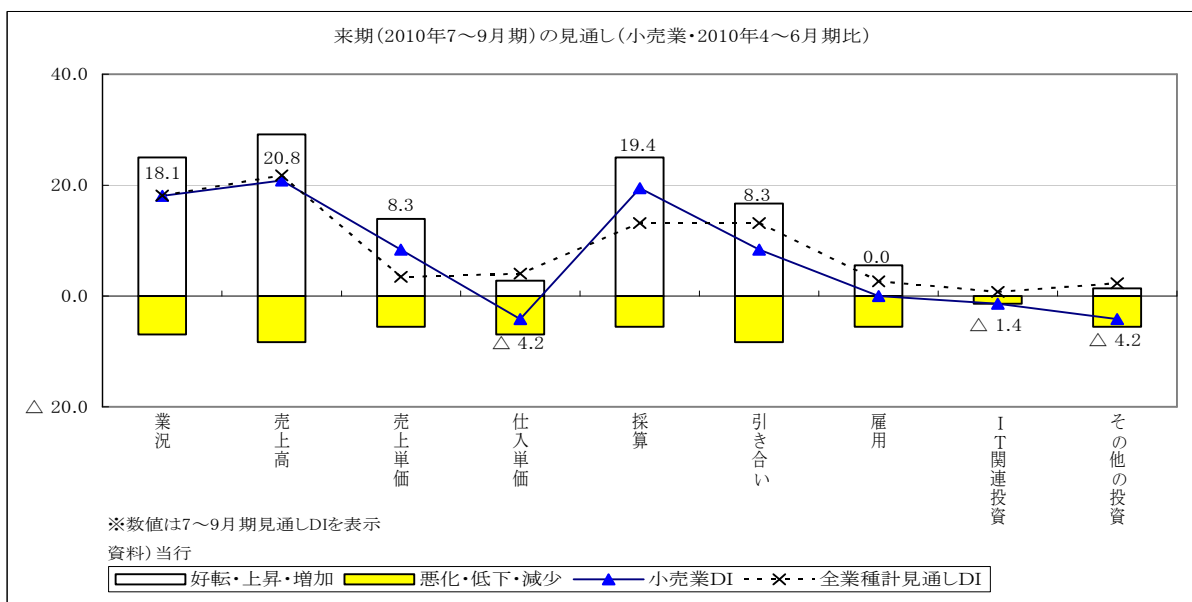
a. 当期の状況 (2010年4～6月期の前年同期比)

小売業DIを見ると、新型インフルエンザ騒動が発生した昨年の反動などもあり、土産品など観光客需要が増加、また、これまでの営業強化により一部において県外やインターネット等販路が拡大、売上高、引き合いは好転しています。また、政策効果による自動車、家電関連も引続き好調を維持しています。小売業全体では**業況改善の動き**が見られます。



b. 来期の見通し (2010年7～9月期の2010年4～6月期比)

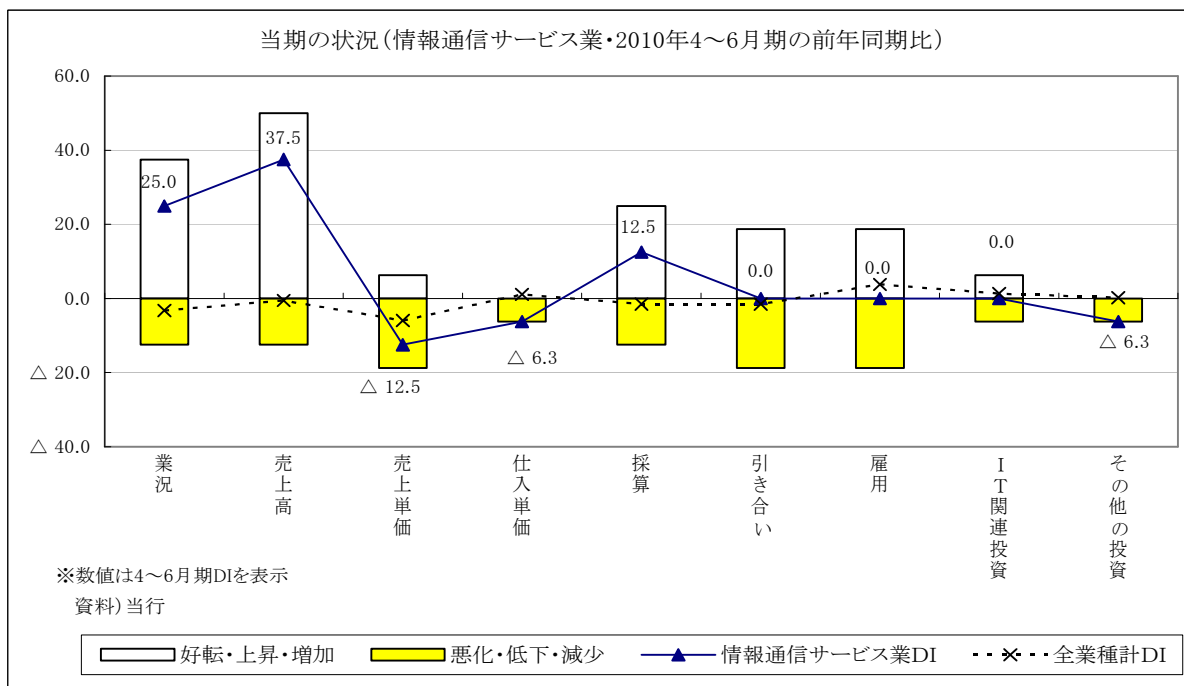
来期の見通し小売業DIを見ると、卸売業同様、旧盆やお中元、敬老の日などの季節的イベントに加え、夏場の本格的な観光シーズン到来により引き合いは増加を見込みます。また、9月のエコカー補助金期限や10月のタバコ価格引上げ前の駆け込み需要など政策的な需要も見込まれます。小売業全体では**業況改善の動き**が見られます。



7. 情報通信サービス業

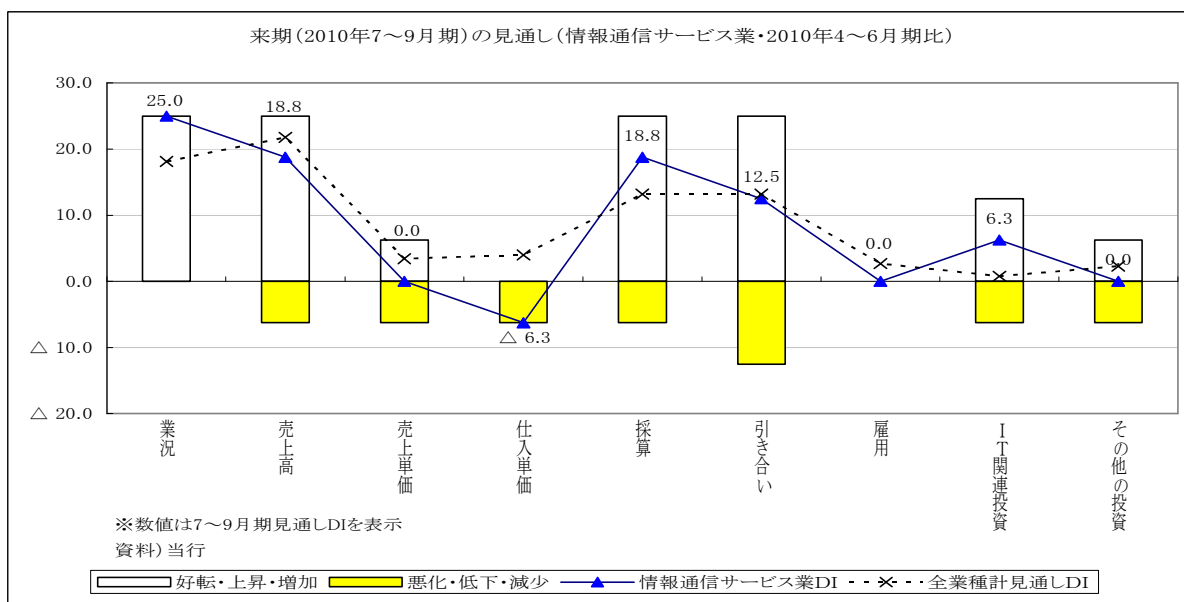
a. 当期の状況 (2010年4～6月期の前年同期比)

情報通信サービス業DIを見ると、売上単価(△12.5)は悪化していますが、リーマンショック後の需要減に底打ち感が出ており、ソフトウェア、ハードウェアともに徐々に需要が回復しつつあります。また、顧客セミナー開催など多方面へ営業活動の強化を継続するなど、情報サービス業全体として**業況改善の動き**が見られます。



b. 来期の見通し (2010年7～9月期の2010年4～6月期比)

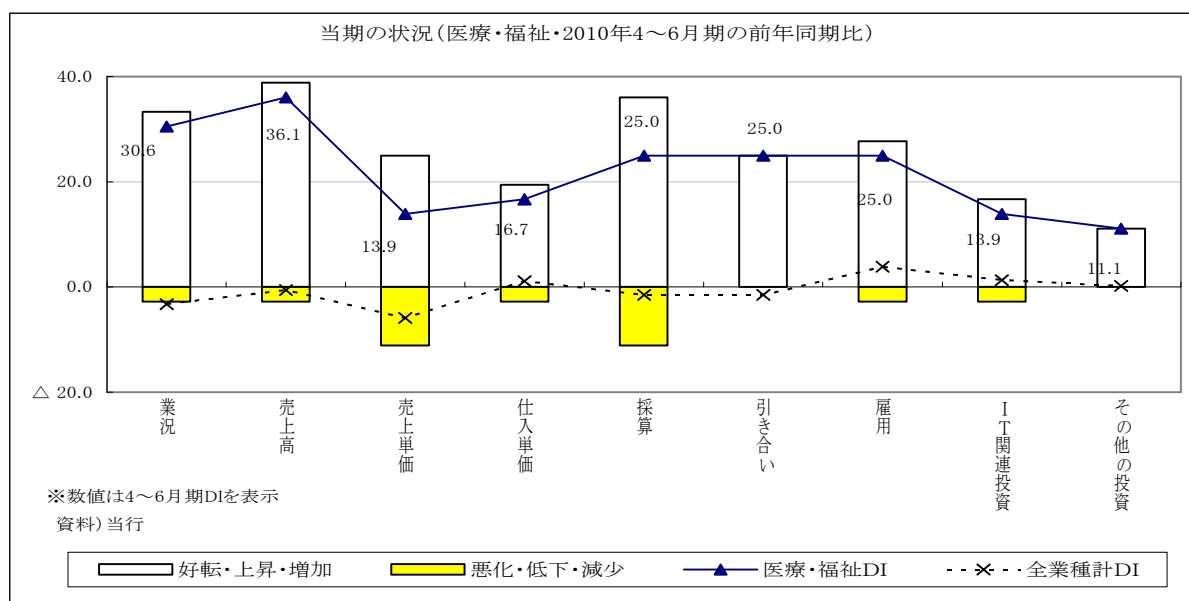
来期の見通しを見ると、業況(25.0)、売上高(18.8)、引き合い(12.5)と、公共・民間ともに引続き需要の回復を見込みます。また、設備更新等の投資なども検討されています。情報通信サービス業全体として**業況改善の動き**が見られます。



8. 医療・福祉

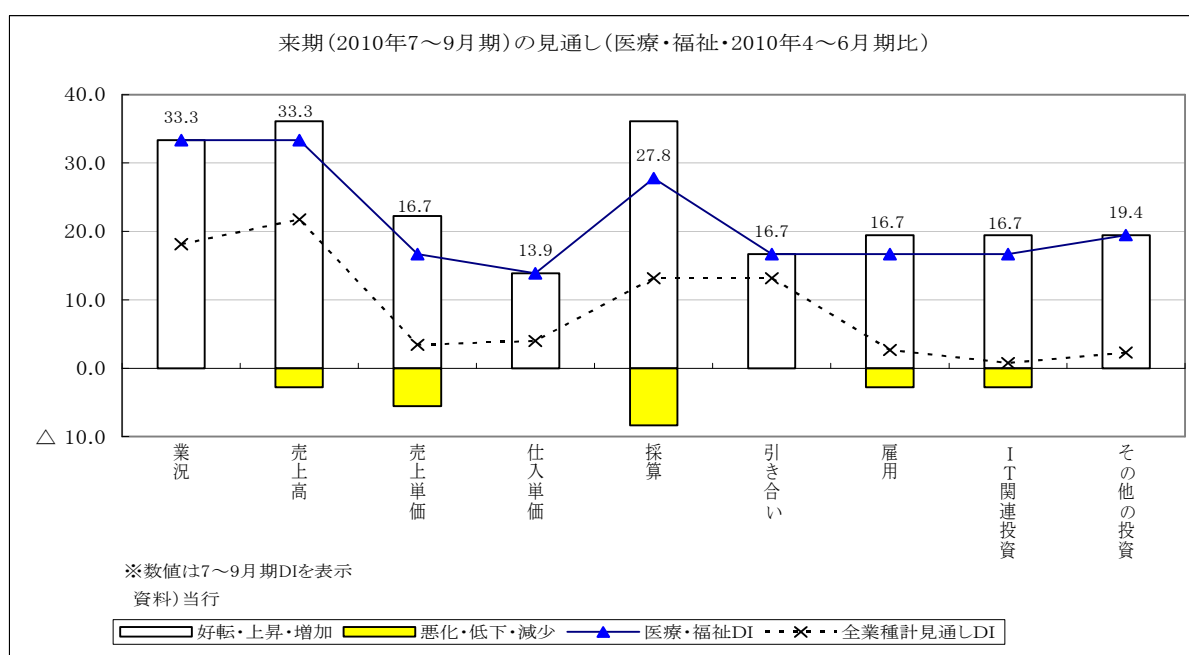
a. 当期の状況 (2010年4～6月期の前年同期比)

医療・福祉DIを見ると、診療報酬改定については特に大きな影響はなく、売上高(36.1)、採算(25.0)、引き合い(25.0)と業況は引続き好調に推移しています。また、高齢者専用賃貸住宅の新設など新たな設備投資も活発になっており、業務の多角化が確認されます。医療・福祉全体としては**業況改善の動き**が見られます。



b. 来期の見通し(2010年7～9月期の2010年4～6月期比)

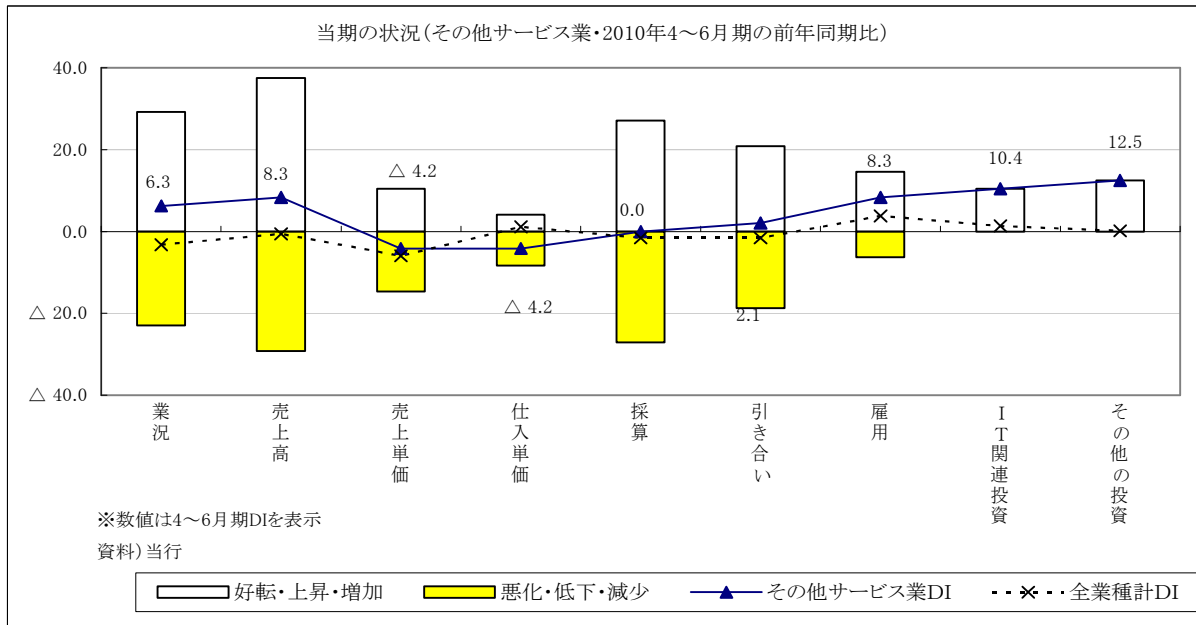
来期の見通し医療・福祉DIを見ると、売上高(33.3)、引き合い(16.7)、採算(27.8)と業況(33.3)は引き続き好調に推移します。医療施設、介護施設ともに高齢者専用賃貸住宅新設などの事業拡張の動きが継続的に見られます。その他に電子カルテの導入など今後も設備投資は続く見込です。医療・福祉全体として**業況改善の動き**が見られます。



9. その他サービス業(宿泊、飲食、ゴルフ場、遊戯場、映画館、結婚式場、教育関連等)

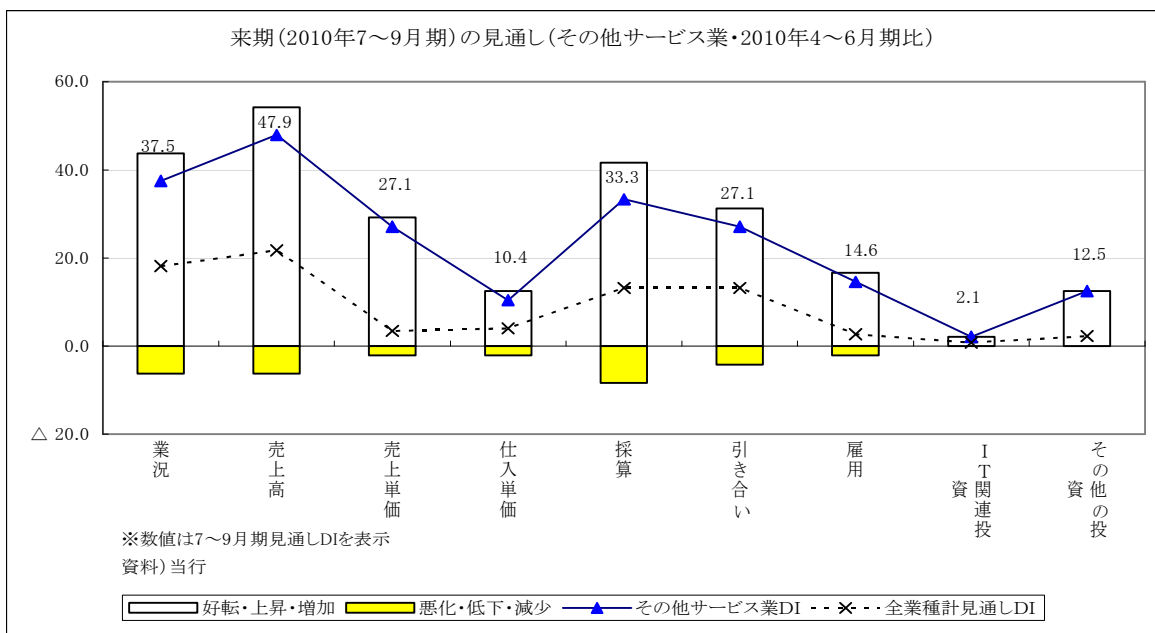
a. 当期の状況(2010年4~6月期の前年同期比)

その他サービス業DIを見ると、消費低迷による内食化など飲食業は需要の減少が続きます。宿泊施設は新型インフルエンザが発生した昨年と比較すると観光客数の需要は増加しています。一方で、競争環境は厳しく売上単価は悪化しており、インターネットによる集客や小宴会等の県内需要掘起しなど営業強化を図っています。その他サービス業全体としては**業況改善の動き**が見られます。



b. 来期の見通し(2010年7~9月期の2010年4~6月期比)

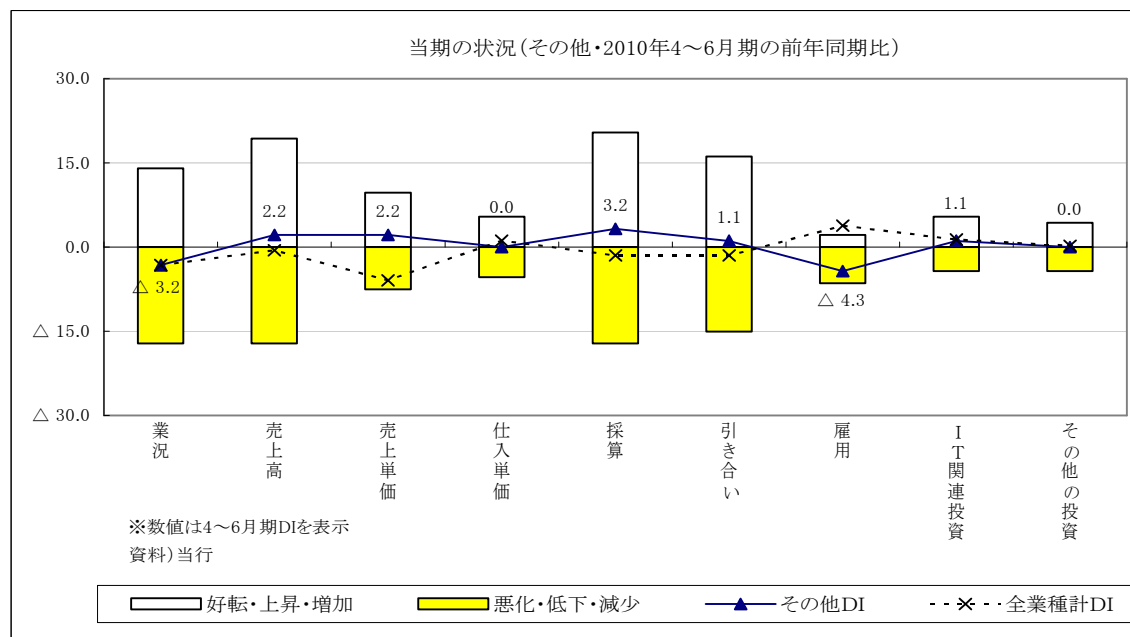
来期の見通しを見ると、高校総体の県内開催、新型インフルエンザ流行の反動、観光シーズンによる国内外観光客及び修学旅行の増加、夏祭り等のイベントなど観光業界のトップシーズンであり、多方面で好転することが見込まれます。リーマンショック後、長期間低迷していた観光関連業種の強い期待感が伺え、その他サービス業全体として**業況改善の動き**が見られます。



10.その他(不動産、運輸、測量・設計コンサル等)

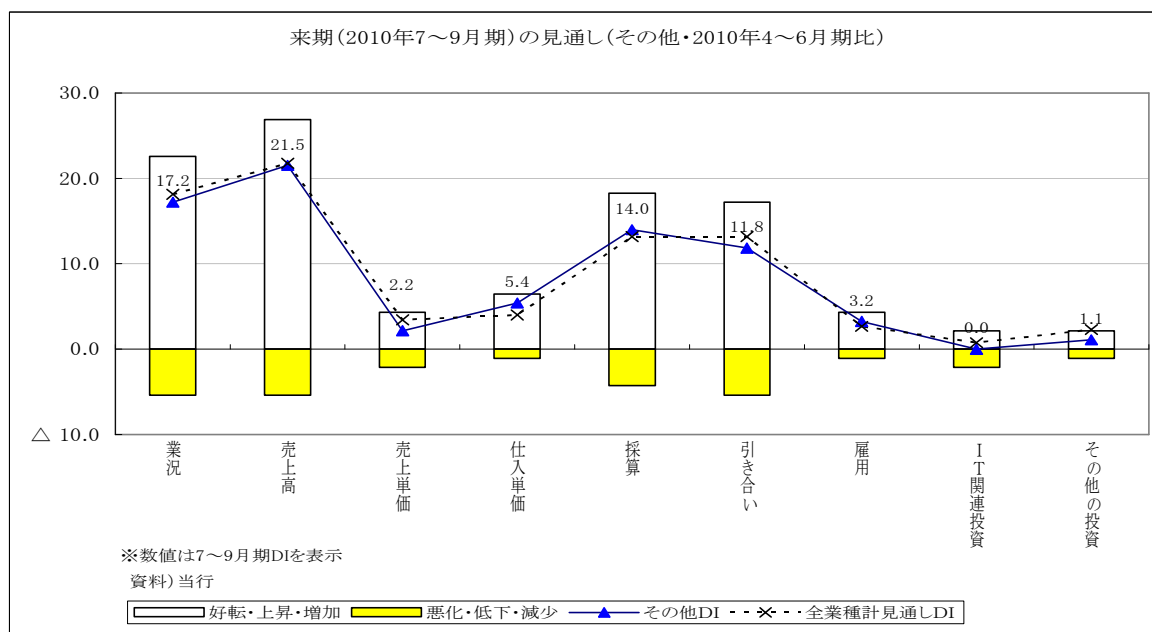
a.当期の状況(2010年4~6月期の前年同期比)

その他DIを見ると、これまでの経費削減努力から採算(3.2)は好転し、設計・建設コンサルタントや不動産取引など徐々に、引き合い(1.1)も増加しています。しかし、タクシーや航空貨物など運輸関連で需要低迷や原油価格上昇など厳しさが続きます。雇用(△4.3)も悪化が続いており、その他全体としては**業況の弱さ**が見られます。



b.来期の見通し(2010年7~9月期の2010年4~6月期比)

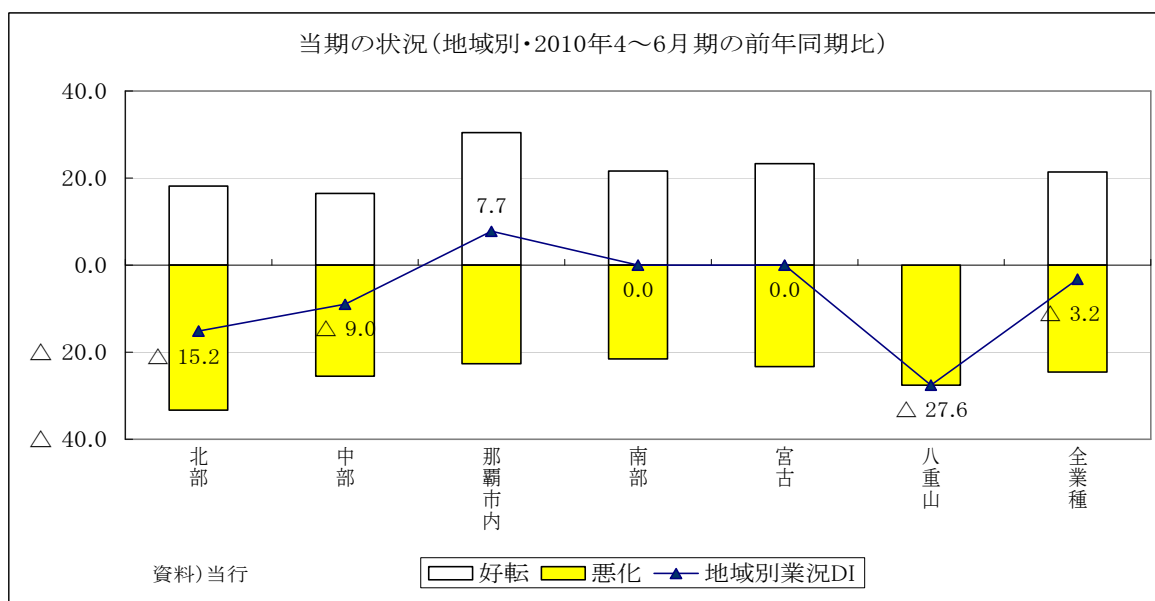
来期の見通しを見ると、観光シーズンの到来や、建設市況の活発化など、運輸、不動産、建設コンサル等、幅広い業種で需要増が見込まれ、業況(17.2)、売上高(21.5)、採算(14.0)、引き合い(11.8)と各項目で好転が見込まれています。原油価格の動向に注視する必要はあるものの、その他全体として**業況改善の動き**が見られます。



Ⅲ. 調査結果(2) ～地域別の業況DI～

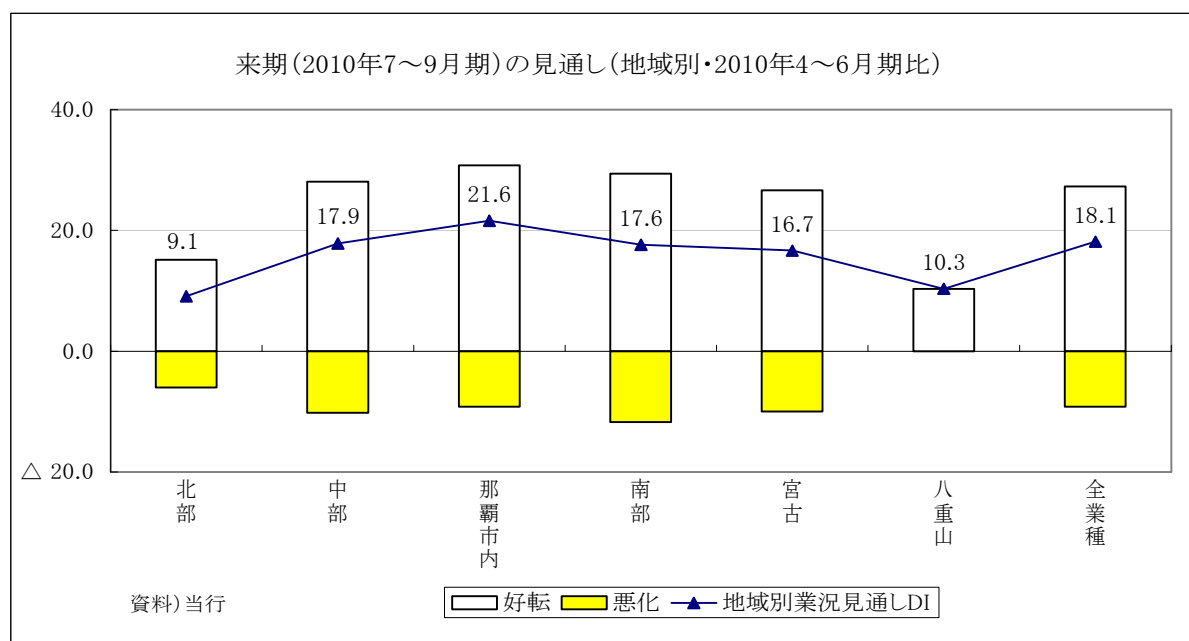
1. 当期の状況(2010年4～6月期の前年同期比)

地域別業況DIを見ると、好転しているのは那覇市内(7.7)のみで、北部(Δ 15.2)、中部(Δ 9.0)、八重山(Δ 27.6)で悪化しています。北部は建設関連業種のウェイトが高く、八重山では建設及び観光関連の多くで悪化が見られます。中部は運輸業も多く、建設需要の減少に加え、燃料高騰も影響しています。那覇市内は多様な業種が混在し、医療・福祉の好調さが全体を押し上げています。



2. 来期の見通し(2010年7～9月期の2010年4～6月期比)

来期の業況見通しDIを見ると、県内各地において、建設需要の発生や、夏場の旧盆や祭りによる県内消費活動の活性化、高校総体の県内開催、昨年新型インフルエンザの反動及び修学旅行の増加などによる観光客数の増加など各産業の需要増が期待されています。全体では18.1と**改善の動き**が見込まれます。



IV.まとめ

業況DIの推移(業種別)

- ① 当期(2010年4～6月期)の業況DI調査の結果は△3.2と業況感の弱さが見られました。県内は建設業及びそれに関連する業種(資材販売、生コン製造、運輸業等)が多く、公共工事の減少による影響が伺えます。
- ② 観光関連(宿泊、飲食、卸・小売)では、2008年9月のリーマンショックによる景気の冷え込みの中に起こった新型インフルエンザ流行発生で、観光客減少が続いた昨年の同時期から比較すると、客足は戻りつつありますが、客単価の減少が続く、採算は好転するに至りません。
- ③ 卸売業や製造業では、小麦や粗糖等の原料価格の低下や円高による仕入価格低下の恩恵はあるものの、需要の弱さや再び上昇基調にある鉄・原油価格などにより、業況の弱さが見られます。
- ④ 来期(2010年7～9月期)の見通しについて、以下の事由を主な要因とした景気回復の期待感から、多くの業種で業況改善が見込まれています。

- ・ 「美ら島総体」の開催
大会期間：平成22年7月28日(水)～平成22年8月20日(金)
参加者見込：36,000人(選手・監督)
平成19年佐賀総体実績：選手・監督=34千人、その他応援等述べ人数=562千人
- ・ 夏場の観光シーズンの到来による国内外からの観光客数の増加(新型インフルエンザ流行の反動増)
- ・ 旧盆やお中元、夏休み、夏祭り等のイベント効果による県内消費の活性化
- ・ エコカー補助金期限(9月末)やタバコ値上げ(10月)による駆け込み需要
- ・ 公共工事の増加による、受注環境の改善

- ⑤ 一方で、人件費抑制を中心とした経費削減努力は今後も継続が見込まれ、雇用環境の改善は鈍く、県内企業の経営環境は楽観視できない状況が続く見通しとなっています。

(おきぎん経済研究所 研究員 上地良平)

